

【九州手話サークル連絡協議会、池尻和吉新会長挨拶】

今年度より九州手話サークル連絡協議会の会長をします、池尻和吉です。



私は福岡県の理事として3年前から、九手連の理事会に参加するようになりました。

私の自己紹介をしますので、私の人物像を想像してみてください。

私が手話を始めたのは、平成5年に手話奉仕員講座(初級)を受けてからです。

私は高校生の時から、福岡市の郷土芸能である博多にわかをしていましたが、「博多にわかば手話でできるようにならんね。」と、同じ工場の先輩(私の職業は町工場で歯車を造る機械工です)に言われてその気になり、手話を習うようになりました。

私の暮らしている福岡市には、歓楽街の中洲があります。

若い頃から中洲で遊び呆け、独り身のままに歳が過ぎていつかの申年です。

目の前に、困難な道と安易な道があれば、考えることなく、安易な道を選びます。

自己主張は少なく、頼まれたら断れない。押しに弱く押されに弱い。

まあいいかと一晩寝れば新たな気持ちになる、きわめて鈍感な楽道家です。

皆さんの中に色んな池尻像が浮かびましたか？こんな私が大丈夫かなと実際思いますが、案ずるより産むが易い。

とにかく一步を踏み出さないと始まらない。

だから、皆さんと新しい今年度をよーいドンとスタートしていきましょう。

【幹部研修会に参加して】

講師に柳原志保（歌うママ防災士）氏を迎えして

「いきいき防災術～もしもに備えるいつも～」と題して

講演とワークショップをして頂きました。

講師は、東北大地震と熊本大地震の二つの震災を経験され、勉強し防災士に成られ、日頃の防災に備える意識や行動を普及する活動を続けておられます。

災害の体験の中で、以下のようなお話をして頂きました。

- ・危ない物：瓦・側溝の蓋など。
- ・チェックするもの：普段から意識して、ブロック塀・非常口・公共のTEL番号など。

・情報収集：スマホ・ラジオ・テレビなどに
アンテナを張る。真偽を自分で判断する。

・備え：現状備えている人が少ない、
避難所には何か持って行く。

知人の話として・・・「助け合い」の言葉で準備して
来ている人が、みんなに差し出したと言う状況も
あったそうです。

※支援は直ぐには来ません！ みんな被災者。お客じゃ
ない。一人一人が準備する！

・避難所運営：リーダーは男女どちらでも構わないが、運営委員は女性を3割以上に。

各々の得意分野を活かし、一人一役して貰う方が良い。

その他にも、トイレ・配布・配慮でストレス軽減・不足し易い物などについて。

<ワークショップ>

・『パーソナルカード』の作り方：命を守る情報、公衆電話に必要な10円玉（掛ける時入れなければ使えず、電話終わると返却される）、救助を求める為のホイッスル。

情報で有った方が良いのは、アレルギー・かかり付け医・お薬手帳のコピー・
家族写真（探す時にとても便利）など。

・『クロスロード』：Yes or Noカードを使い5人で（奇数で）行います。

出題例・・・避難所に500人居ます、200人分の食糧しか有りませんが、

食糧補給の予定は有りません。あなたは配りますか？Yes or No

それぞれの方が、そのカードを選んだ理由を話して貰います。

ルールとして否定せず話を聞きます。多様な考えを認め、意見を共有し、色々な気付きの対話の中
からグループとしての結論を導き出しました。

大切なことは、災害はどこでも、いつでも起こります！

皆さんにお知らせして、一緒に勉強し、日常備蓄（ローリングストック）を行う。

普段から、人間関係作り・仲間作りをして、非常時にSOSを言える関係を作り上げましょう。出
来ることから始め、完璧なものは求めないと言うのが本当に大切です！

とご講演を頂きました。

このレポート作成中に、西日本豪雨災害が発生し、時間を追うごとに被災地の厳しい状況が中
継されました。亡くなられた方々の冥福を祈り、行方不明の方々が一刻も早く見つか
り、被災地が一日も早く復興して行くことを心からお祈りします。

講演で学んだ事を、心に刻んで自分の活動・サークルの活動に繋げて行きます。

長崎県 南島原手話サークル 草野徳

【評議員会】

6月23日(土)、幹部会議及び通信員会議に引き続いて、各県の評議員29名と九手連役員の出
席の中、17時30分から「九手連評議員会議」が開かれました。

地元熊本からの来賓紹介で、九州聴覚障害者団体連合会 松永理事長と、熊本県ろう者福祉
協会 福島理事長からの来賓挨拶の後、選出された熊本の吉野綾議長の進行により、まず平成2
9年度事業報告、決算・監査報告の審議が行われ、訪問研修の内容についての質疑応答や、全国
発信に向けた継続的活動についての意見がありました。特に異議なく原案どおり承認されまし

た。

次に、新年度の会議予定、諸々の研修、広報や組織強化などについての事業計画案、予算案についても、原案どおり承認されました。



今回、新しく福岡の池尻和吉さんが会長に承認され、後任として、福岡の理事は和田修さん、鹿児島島の理事の出森俊郎さんから濱川千鶴子さんへの交代、併せて、青山前会長が熊本の理事に戻られることが承認されました。また中元教博さんが相談役を辞任されることが承認されました。

なお、村本宗和さんにおいては、引き続き今後も顧問としてご活躍していただくことあいさつをいただくなど、新しい役員体制でスタートすることを確認し、評議員会議を閉会しました。（お疲れ様でした）

大分サークルはぐるま夜 会長 中村義成

【第26回九手連研修会】

《午前の分》

テーマ「ろう者の教育現場における“手話”やサークルの関わりについて」

午前の部 講演 「かわづ寺子屋『ふくろう』の活動を通して～みんなちがって、みんないい～」

講師：河津知子氏（大分県立聾学校 高等部家庭科 実習教師）

（平成30年6月24日 熊本市国際交流会館）



〔講演の概要〕

○かわづ寺子屋『ふくろう』の活動について

かわづ寺子屋『ふくろう』は、毎月第3土曜日の10時半～14時半に、大分県立聾学校の体育館等を利用して行われます。大分県立聾学校の生徒はもちろん、きょうだい児や地域の学校に通う難聴児たちも参加します。河津さんは、1999年から18年間続くこの活動を評価され、昨年12月に「平成29年度障害者の生涯学習支援活動」と

して文部科学大臣から表彰されました。

活動内容は、午前中は絵本の読み聞かせやゲーム遊びなど。その後一緒に昼食。午後は自由遊びなどをします。年齢の異なる子どもたちが集団となり、お互いにサポートしあって自主的に遊ぶ様子が写真で紹介されました。

○河津さんの生い立ち

『ふくろう』の活動の原点は、河津さんの生い立ちにあります。聾学校が遠方だったため、3



歳からの17年間を学園で過ごした河津さん。聾学校は口話教育全盛の時代で、つらい口話訓練の日々でしたが、学園に帰ると、そこはさまざまな年齢の仲間と手話で話せる世界。そこで、聞こえない自分を自然に受け入れて成長しました。学園では、聴者との交流が積極的に行われており、そこで、聞こえる人と聞こえない人との違いを自然に受け入れるようになりました。聞こえない人だけで固まるのではなく、さまざまな人と関わる経験を積まれたとのこと。そのご経験から、「聞こえない子どもたちに仲間を」「居場所を」という思いで、『ふくろう』を立ち上げられました。

○河津さんからのメッセージ

最後に、河津さんから私たち手話サークルに対してメッセージがありました。

- ・子どもたちを「比較」するのではなく、「違い」を認めて関わってほしい
- ・社会にはまだ聴覚障害の正しい理解が広がっているとは言えない。サークルが力を発揮してほしい。
- ・ろう児の成長を聾学校任せにするのではなく、地域やサークルもつながってほしい

〔感想〕

現在、全国的にも「手話で子育てを」という機運が高まっており、さまざまな取り組みが広がりつつありますが、九州各県にも、『ふくろう』の活動をモデルケースとして、子どもたちの居場所づくりが広がっていくことを願っています。一方で、「手話サークルと聾学校との間に距離がある」という指摘もありました。手話サークルでは、成人のろう者と関わることはあっても、聞こえない子どもたちと関わる機会はとても少ないように思います。聞こえない子どもたちに、「仲間がいる」「居場所がある」と伝えるため、手話サークルができることを模索していきたいと思いました。

福岡県 北九州手話の会 井料美輝子

《午後の分》

午後は、3名の方からの事例報告、午前の講師である河津知子氏やフロアーも含めての意見交換でした。今回は、学校関係者や、保護者の参加も多かったようです。フロアーの保護者の意見も出て、聴覚障がい児・者を取りまく環境への期待や要望・等の思いが伝わってきた研修でした。報告事例及び概要は、次のとおりです。

◇宮崎県：「聴覚障がい教育を考える会」における取組 嶋田 智子氏

- ・「考える会」で、情報交換研修会や教育フォーラムを行っている。
- ・活動を通して、手話サークルと聴覚障がい児とのかかわりについて考えるきっかけになっている。

◇福岡県：NPO法人「言葉の森くるめ」における取組 山崎佳都子氏

- ・主に6つの事業を行っている。（多機能型事業所、聴覚障がい教育支援、など）
- ・聾学校講演会からの起りなので、現在は聴覚特別支援学校に在籍している子どもだけを対象としている。今後、地域とどうつなげるかが課題。

◇熊本県：九州ルーテル学院大学における取組 佐々木順二氏

- ・手話学習会→手話サロン→手話カフェ・課外講座の実践とあゆみ。
- ・聴覚障害者の働く環境も変化しているのでニーズに合わせた支援の検討が必要。より深い

学びと地域との連携を目指し、P D C Aサイクルで取組を続けていく。

講演・事例には、いくつかの共通点があったと思います。その中で特に印象に残ったのは“かかわりの場を大切にしていること”です。「気軽なふれあい」（宮崎県）、「手話に興味のある人の憩いの場」（福岡県・ふらっとカフェ）、「だれでも参加できる」（熊本県・手話サロン）、「かかわりのなかで学ぶ」（ふくろうの森）と、方法は異なるものの、人とかかわりを活動の核に据えられていたと思います。また、社会（法制度、生活スタイル、コミュニケーション…）の変化に対応すべく、先を見据えて内容を変化させたり、方向性を考えていることも、大切なことだと感じました。



現代は、人間関係が希薄になっているといわれますが、やはり、地域でのつながり、人とかかわりの中で育ち、学ぶことは大切です。「サークル活動」の意味を調べてみると「社会や組織が大きくなり、人間関係が疎外される状況になると、人間性を回復したり、情緒的な不安定性を解消したりするばかりでなく、社会運動などの活力を底辺から支えたり、学習効果を高めたりする機能をもつ。」と記されているものがありました。地域の資源のひとつとして、役割を果たしていくことの大切さを改めて感じました。研修を通し、それぞれ、自分の地域のサークルで大切にしていることを振り返ったり、一歩先を見据えてどう変化させていくかを考えたりする機会になったのではないかと思います。

熊本県 天草わかぎ 吉野 綾



【編集後記】

6月の九手連研修会(熊本県)の時も暑かったですが、梅雨明け後の暑さは凄いですね！。

皆さま体調管理には十分お気をつけください。

また西日本豪雨で被害に遭われた皆さまには謹んでお見舞い申し上げます。お知り合いやご友人が被災地にいらっしゃる方がおられるかもしれません。暑さが収まり一日も早く静かな生活を取り戻されるようお祈り申し上げます。

今度は9月の長崎でお会いしましょう。

佐賀県 高倉

九州手話サークル連絡協議会

発行責任者：池尻 和吉

広報誌担当：高倉 尊広（佐賀県）

事務局 〒861-0143

熊本県熊本市北区植木町大和34-2

森 保夫

発行：平成30年7月31日